

平成29年度 水道事業・工業用水道事業・ 公共下水道事業 決算の概要 — ライフラインのフトコロ事情 —



バランスがとれているとコップは斜めに立ちます。バランスのとれた経営が大事です。【写真提供：和歌山県紀の川市】

問い合わせ 上下水道局業務課 ☎2193

上下水道局の会計のしくみ

水道事業・工業用水道事業・公共下水道事業の会計は、地方公営企業法に基づき、複式簿記・発生主義を基本とする企業会計で行っています。現金の増減記録(単式簿記)だけでなく、経済取引によって生じた「結果」とその「原因」の両面から記録する複式簿記は、業務の経営成績・財政状況を的確に把握し、業務のより適正な評価が可能であり、効率的な運営のために行っています。

水道事業

安全で良質な水の供給と 経営健全化に努める

給水人口の減少などにより年々使用水量が減少し、料金収入も減少しています。こうしたなか、安全で良質な水を安定して供給しながら、引き続き経費の削減などに努めました。しかし、営業収支では依然として営業損失を計上しており、より一層の経費の削減などによる経営の健全化が必要です。平成29年度の収益的収支は、収入総額5億9,236万円、支出総額4億8,401万円、差し引き1億8,335万円の純利益となりました。(消費税および地方消費税抜き)

工業用水道事業

産業の活性化に寄与するも 厳しい経営状況

工業用水道事業は、これまで安定した工業用水の供給を行うことで、本市の産業の活性化に寄与してきました。しかし、旧第2期工業用水道事業の企業債償還利息や減価償却費が財政を大きく圧迫するなど、厳しい経営状況です。平成29年度は利益を計上しましたが、今後も、施設の維持管理を適切に行うとともに、より一層の経費節減を行います。

公共下水道事業

施設老朽化に対応し長寿命化

平成29年度の収益的収支は、収入総額5億2,178万円、支出総額4億6,560万円、差し引き5,618万円の純利益となりました。(消費税および地方消費税抜き)



処理人口の減少や節水機器の普及などによる処理水量の減少に伴い、使用料収入が年々減少しています。また、比較的早くから事業を展開してきたことで、事業認可区域内の整備はほぼ完了していますが、施設の老朽化対策のため、厳しい経営状況です。下水道処理場やポンプ場などの施設の延命化と維持費の平準化などによる中長期的な費用の抑制のため「下水道長寿命化計画」に基づき、経費の節減に努めました。

平成29年度の収益的収支は、収入総額9億2,102万円、支出総額8億5,665万円、差し引き6,437万円の純利益となりました。(消費税および地方消費税抜き)

貸借対照表 (平成30年3月31日) (単位:万円)

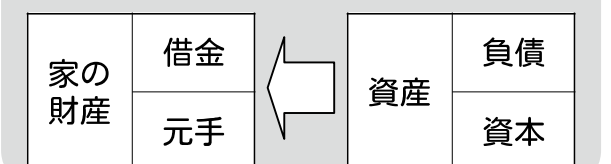
資産	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
固定資産	400,928	830,242	984,413
有形固定資産	333,864	339,505	978,896
無形固定資産	807	490,737	5,517
投資資産	66,257	0	0
流動資産	144,208	61,661	110,003
現金預金	141,109	58,010	85,922
未収金	2,715	3,590	24,037
貯蔵品	343	31	14
その他流動資産	41	30	30
資産合計	545,136	891,903	1,094,416
負債	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
固定負債	69,566	462,901	264,858
企業債	63,020	395,600	253,400
リース債務	0	0	0
庁舎建設負担金	0	0	5,192
他会計借入金	0	66,128	0
引当金	6,546	1,173	6,266
流動負債	23,363	59,892	79,623
企業債	4,655	56,124	24,474
リース債務	0	0	0
庁舎建設負担金	0	0	124
他会計借入金	0	129	0
引当金	589	81	399
未払金	9,294	3,474	54,515
その他流動負債	8,825	84	111
繰延収益	111,305	112,225	400,039
負債計	204,234	635,018	744,520
資本	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
資本金	167,126	286,291	71,777
自己資金	167,126	286,291	71,777
剰余金	173,776	△29,405	278,119
資本剰余金	84,451	4,607	233,849
利益剰余金	89,325	850	44,270
欠損金(△)	-	△34,862	-
資本計	340,902	256,886	349,896
負債・資本合計	545,136	891,904	1,094,416

財産と借金との関係を表す 貸借対照表

財産状況を示すもので、経営に必要な資金をどのように集め、どう運用しているかを明らかにします。大きく分けると、「資産」「負債」「資本」に分類されます。「資産」が手持ちの財産内訳で、「負債」「資本」がその財産を取得したときの方法になります。このため「負債」「資本」の金額を合計したものが「資産」となり、**バランスシート**とも呼ばれます。

家計に例えると、貸借対照表(バランスシート)は、1年間やりくりした結果、年度末時点での家計の状況を示したものになります。「資産」は、持っている土地や家などの財産、預金、現金などです。「負債」は家のローンなどの借金、「資本」は家庭を築いたときの元手や、その年度の利益や損失が含まれます。

家計に例えると 貸借対照表



損益計算書 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)(単位:万円)

収益	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
料金収入	42,775	46,821	46,182
その他営業収益	2,881	13	19,258
営業外収益	7,835	5,332	26,638
その他	5,745	12	25
収益合計	59,236	52,178	92,102
費用	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
人件費	5,035	986	2,793
物件費	16,107	11,866	35,153
動力費	344	38	16
受水費	10,287	0	0
支払利息	1,618	7,706	5,101
減価償却費	14,970	25,964	41,554
その他	40	0	1,048
費用合計	48,401	46,560	85,665
純利益(純損失△)	10,835	5,618	6,437

※ 消費税・地方消費税抜き

決算書を販売しています

上下水道局の平成29年度決算書を500円で販売しています。市立図書館や情報公開コーナー(市役所2階)、市ホームページでもご覧いただけます。



黒字?赤字? 損益計算書で分かる

1年間の営業活動の内訳を表したもので、その企業がいくらの「収益」を得て、いくらの「費用」が必要であったのかが分かります。また、その差し引きにより、利益(または損失)がいくらかあったのかを知ることができます。

家計に例えると、家計を1年間やりくりした実績を表したものです。これにより1年間で黒字だったのか、赤字だったのかが分かります。「収益」は働いて得た給料などの収入や株の売却益などの臨時収入です。「費用」は食費や電話代、保険料、借金の利息などの支出です。すべての収入から、すべての支出を差し引いたものが、黒字(または赤字)になります。

家計に例えると 損益計算書

